# 令和８年度
# 全国学力・学習状況調査の結果について
（羽曳野市立埴生南小学校）

## 【調査の目的】

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 【調査の対象学年】　小学６年生

## 【調査の内容】

❶教科に関する調査（国語、算数、理科）

出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

①身に着けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

❷生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

① 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

## 【調査実施日】　令和８年４月２３日（木）（国、算）
令和８年４月３０日（木）（児童質問紙オンライン）

## 【留意事項】

※全国学力学習状況調査の結果は、学力の中の特定の一部分であり、また子どもたちのすべての学習状況を表すものではありません。

# 【テーマ1】学習に向かう姿勢と「自律的な学び」への課題

## 1．基本的な学習姿勢・粘り強さ（本校の強み）

- **【データ】**
  - 授業での振り返り実施（すくすく 6 年）：**92.1%**
  - 板書の書き写し（すくすく 5 年/6 年）：**93.0% / 97.4%**
  - テストで最後まで解こうとする粘り強さ（算数問 1）：**86.1%**

- **【分析】**
  黒板を写す、振り返りを書く、テストをあきらめずに解くといった**基本的・定型的な学習行動や学習への真面目さは極めて高く定着**しています。

## 2．受動的作業から「自律的な工夫・探究」への転換（課題）

- **【データ】**
  「学び方の自律的な工夫」×「算数の解答努力」のクロス集計（下表参照）：
  テストを最後まで解こうと努力した児童（66 名）のうち、自分で学び方を考え工夫している児童は **21.2%（14 名）**にとどまり、工夫をしていない児童が **25.7%（17 名）**います。

| **算数問 1「最後まで解答を書こうと努力した」（66 名）** | **学調問 22「自分で学び方を考え、工夫できているか」** | **人数** | **割合** |
|---|---|---|---|
| **該当児童** | よくある（自律的・工夫あり） | 14 名 | **21.2%** |
| **該当児童** | ときどきある | 35 名 | **53.0%** |
| **該当児童** | **あまりない・全くない（工夫なし）** | **17 名** | **25.7%** |

- **【分析】**
  - 「指示された作業を忠実にこなす（受動的学習）」ことはできている反面、**「自ら工夫して課題解決に向かう（自律的学習）」へのステップアップに課題**があります。
  - 板書の書き写しや振り返りが「形式的な作業」にとどまっている可能性があるため、自発的に考えを整理し深める学習活動への転換が必要です。

# 【テーマ2】人間関係と集団形成（対話・議論の質の向上）

## 1．良好な人間関係と協働意識（本校の強み）

- **【データ】**
  - 友達との協力意欲（すくすく５年/6 年）：**94.4% / 96.1%**
  - 困っている友達への助け合い（すくすく５年）：**91.5%**
  - 協力した課題解決意識（学調６年）：**89.5%**

- **【分析】**

  児童間の人間関係は良好であり、困っている友達を助けたり協力して取り組んだりすることへの心理的ハードルは非常に低い状態です。

## 2．多様な意見の受け入れと対話・議論への発展（課題）

- **【データ】**

  「友達関係の満足度（問 17）」×「異なる意見を楽しむ（問 16）」クロス集計：

| | **問 17「友達関係に満足している」** | | | |
|---|---|---|---|---|
| | **◎（満足 54 名）** | **○** | **△** | **×** |
| **問 16「自分とちがう意見が楽しい」◎（大変肯定）** | **17 名 (31.5%)** | 8 名 | 0 名 | 0 名 |
| **問 16「自分とちがう意見が楽しい」○（肯定）** | **21 名 (38.9%)** | 4 名 | 0 名 | 1 名 |
| **問 16「自分とちがう意見が楽しい」△（やや否定）** | **13 名 (24.1%)** | 4 名 | 2 名 | 2 名 |
| **問 16「自分とちがう意見が楽しい」×（否定）** | **3 名 (5.6%)** | 0 名 | | 0 名 |

- **【分析】**
  - **良好・発展層（約 66% / 50 名）**：友達関係に満足し、異なる意見も前向きに受け入れられる層

であり、対話的学びを進める素地があります。
    - **受容課題層（約 27% / 20 名）**：「友達関係には満足しているが、異なる意見を楽しむことができない」層です。同質的な安心感の中に留まり、意見の衝突や議論を避ける傾向がうかがえます。
    - 単なる「仲の良さ」にとどまらず、異なる視点や考えを突き合わせながら思考を深め合う**「学習集団」としての関係性を育てていくこと**が今後の課題です。

# 【テーマ3】思考ツール（図・表）の活用と情報読解力

## 1．有用性の理解と実際の活用力のギャップ

- 【データ】
    - 図や数直線の有用性認識（学調問 67）：「役に立つと思う」肯定的回答 **89.5%**
    - 思考ツール・可視化に関する問題の正答率（抜粋）：

| 教科 | 問題番号 | 問題の概要（扱うツール・視覚情報） | 本校正答率 |
|---|---|---|---|
| **国語** | ３ニ | メモによる思考の整理（概念図メモ） | **37.8%** |
| **算数** | 1(2) | 直方体の展開図と構成面の理解 | **43.2%** |
| **算数** | 4(1) | 表の比較と集計ミスの特定（アンケート集計表） | **43.2%** |
| **算数** | 4(3) | ニ次元の表の読み取り（縦横のマトリクス表） | **10.8%** |
| **わくわく ５年** | 2(2) | デジタル案内板の画面移動図（フローチャート） | **9.9%**<br>(無回答 55.0%) |
| **わくわく ６年** | 2(2) | デジタル案内板の画面移動図（フローチャート） | **21.1%**<br>(無回答 30.3%) |

- 【分析】
    - 約９割の児童が「図や表は問題解決に役立つ」と肯定的に捉えているものの、**実際の場面で図・表・フローチャート等を読み解いたり、自ら活用して思考を整理したりする力として定着していません。**
    - 授業等でこれらのツールを目にする機会はあっても、「自分で使ってみる」「解釈の根拠とする」ような主体的活用の経験が不足していることが伺えます。

# 【テーマ4】言語能力と読書習慣（記述力と学力の基盤）

## 1．読書習慣と国語学力の強い相関

- **【データ】**

  国語の学力層別（A〜D 層）と読書習慣・図書館利用のクロス集計：

| 質問項目 | 国語 A 層<br>(20 名)<br>正答 10~13 問 | 国語 B 層<br>(14 名)<br>正答 8~9 問 | 国語 C 層<br>(12 名)<br>正答 6~7 問 | 国語 D 層<br>(28 名)<br>正答 0~5 問 | 全体<br>(74 名) |
|---|---|---|---|---|---|
| **普段の読書時間<br>（10 分未満 / 全くしない）** | 10.0%<br>(2 名) | 28.6%<br>(4 名) | 58.3%<br>(7 名) | **92.8%<br>(26 名)** | 52.7%<br>(39 名) |
| **学校図書館利用<br>（ほとんど・全く行かない）** | 20.0%<br>(4 名) | 42.8%<br>(6 名) | 58.3%<br>(7 名) | **89.3%<br>(25 名)** | 56.8%<br>(42 名) |

※家庭での蔵書数「0〜10 冊」の児童割合：**本 30.3%**

- **【分析】**
  - **国語 D 層（低学力層）の約 9 割が「普段読書をしない」「図書館を利用しない」児童と重複**しており、読書習慣と学力（言語力）には極めて強い相関が見られます。
  - 家庭での読書環境の乏しさも本校の背景的課題です。学校図書館の活用促進や日々の朝読書など、学校生活の中で意図的に読書量を確保する取り組みが学力下支えの鍵となります。

## 2．記述問題における「他者意識・条件遵守」の課題

- **【データ】**

  記述問題のタイプ別正答率比較：

| 記述問題のタイプ・条件 | 本校正答率 | 課題の傾向 |
|---|---|---|
| **【自分の考え・経験を書く】**（学調国語 3 三(2)）<br>文章を読んで考えたことや自分の経験を書く | **78.2%** | 内面からでる思いを書くのは得意。 |
| **【条件を満たして書く】**（学調国語 2 四）指定箇所の抽出、カギカッコ指定、字数制限（140 字）等 | **38.3%** | **条件不足による誤答が 52.8%。**<br>他者の指定した条件に従うのが極めて苦手。 |

- **【分析】**
    - 自分の思いや経験を自由に記述する問題（自己表現）では高い正答率を示しており、書くこと自体への抵抗感は少ないと言えます。
    - 一方で、「文字数制限」「指定箇所の引用」「カギカッコの使用」など、**出題者（読み手）が求める指定条件を正しく把握し、それに合わせて記述する（他者意識を持った記述）ことに大きな課題**があります。

【課題を解決する取り組み（案）】

1．集団づくりを意識した授業進行
2．思考ツールの活用
3．読書習慣の醸成
4．決められた形式に揃えた記述の経験を増やす

本年度の学力学習状況調査の分析についてお知らせいたしました。今回の結果を受けて学校の教育活動について、授業の改善や子どもの思考が整理されるような手段を教えていくなど、具体的な改善をしていきたいと考えております。また、今回質問紙等から見えてきた課題の中からは学校とご家庭と力を合わせて改善していくものもありました。特に読書に関しては児童質問紙と正答率との相関関係でもわかるように学力と密接な関係がありますが、本校は読書の時間が全国に比べて非常に低い状況になっています。また、家庭での学習時間も全く家庭で学習をしない子どもの割合も多い状況でした。本校も宿題デーなどを通して家庭学習の習慣がつけられるように努力していきますが、ぜひご家庭でも意識していただき家庭学習ができるようにご協力いただきますようによろしくお願いいたします。今後ともよろしくお願いいたします。

埴生南小学校